

議会報告会質疑応答記録

記録作成：議会基本条例推進委員会

- 開催日時：平成28年11月5日（土）10時00分～12時00分
- 開催場所：山西防災コミュニティーセンター
- 参加者：11名
- 主催者側：議員（14名）、議会事務局（3名）
- 次第 ①挨拶（添田議長）
 - ②平成27年度決算概要報告… 決算審査特別委員長（根岸副議長）
 - ③総務建設経済・教育福祉各常任委員会より重点施策・事業について説明
 - ④上記説明に対する質疑応答
 - ⑤グループ意見交換会… A：二宮町公共施設の将来構想について
B：地域と学校のあり方 は希望者なく実施せず
 - ⑥まとめ

<議会報告②③に関わる質疑応答>

参加者：ゴミのところで、大きな処理の話がされた。ゴミは大きな処理のことだけでなく、出るところが大事。私たちが減らす、分別、リユースをしっかりとやらないといけない。そちらに対する施策はどのようになっているか。

添田議長：ゴミ減量化、水を絞るということ、それが基本。一市二町になって分別が変わり、分別方法は進んだと思う。議会の議論をしている中でそのように感じている。

参加者：せっかくプラクルなのに、汚いのを入れてしまうとか、どこに分別するのかとか大丈夫なのかと思う。子どもたちにも積極的に伝えていかなければならない。

参加者：同居・近居推進事業予算は800万円だが執行額は180万円と低い。条件が厳しかったのか。

添田議長：新築は80万円、リフォームは50万円、賃貸の引っ越し費用として10万円がそれぞれ上限。リフォームは町の業者であること。65歳以上の家庭であり、同居する人が55歳以下であること。引っ越しの条件は5年以上町に住むことが条件。都市整備課と健康づくり課でやっていることがアンバランスを生む。厚労省からの補助金なのだろうが連携ができていたのか、真剣な取り組みがなされてきたのか議会でも質問があった。

参加者：せっかくお金がついていて、執行者側はどういう解釈でやっているのか。ただ広報に載せてこういうのがありますよ、というのではなくて。生産人口が増えれば税金も入ってくるはずなのに。すでに同居している人は対象外なのか分からないし、そもそも条件は町が独自で決めたのか、国なのか。

添田議長：国の基準に町が加えたのではないかと思う。結果だけでなく、議会の今後の改善点として、予算から決算に至るまで通年で審査できるようにしなければならないと考えている。

参加者：空き家は245軒あるという。空き家対策、特別措置法とあるが、特定空き家はどのような計画の中で進んでいるのか。

添田議長：同意なくして壊すとか、それについてはまだ条例化などの話は出ていない。

参加者：議会だよりも歳入項目を入れたほうがいいのではないかな。

添田議長：広報にのみやに出ていたため重複を避けたかった。

参加者：子どもは医療費がかかる。かかる前に病気にならない体をつくるのが大事。給食、食を大事にしたいと考えるが自校式に変えていけると嬉しい。町の食材を使い、給食センターの職員は調理員として入っていただく。二宮の給食美味しいよと、それをアピールして二宮に来てもらう。それと貧困で住むところが危うい方のためにも、公団地は綺麗にするとか住みやすくして欲しい。それで呼んでほしい。これは意見。

小笠原議員：給食についてだけ。今、学校に自校式をつくるのは途方もなく夢のように苦しい。今ある新しいセンターを利用して、地場産のものを使って、より良いものにしたい。保護者は放射能汚染のものを食べさせたくないというのはあると思う。

参加者：温水プールは濁っていたり、暖房がきかないなど相当ひどい状態だが、今後どうしていくのか。

小笠原議員：公共施設の見直しの中で考えていく。老朽化しているのは事実だが何年度にやり直すから積み立て、ということは一切していない。はっきりと今後のことは言えない。町レベルで温水プールを持っている行政はなく、それだけ財政的には相当の負担となっている状況にある。袖が浦プールは休止となり、学校授業ではバスで温水プールに行っているの、その部分での必要性は高い。

二見議員：指定管理者の質問をしたときに、温水プールは改修しないと手を上げる指定管理者がないということを答えている。

(以上の質疑応答の後、グループに分かれ意見交換会を開催)